

議会たより

No.94
平成24年1月26日

松崎



元気よく新年のスタート！（松崎小学校マラソン大会）

第4回定例会（12月13日～12月14日）

- ・ 幼稚園2園化条例否決…………… 2
- ・ 町政を問う一般質問に7議員…………… 4
- ・ 議員研修報告…………… 11

平成23年12月定例会

幼稚園2園化条例否決

(賛成3・反対6)

早急に1園化目指すべき

幼稚園移転統合
問題の経過

平成23年10月20日開催の議会全員協議会において松崎町教育委員会から教育施設等整備検討委員会の答申に基づき、津波対策として現在の4園を平成24年4月から中川・岩科の2園へ移転統合する方針が示された。

11月25日の議会全員協議会では保護者へのアンケート結果の報告、2園化に向けた園児の配分計画、通園バスの負担金についての報告を受けた。12月定例会では、これを受け、2園化に向けた条例制定について審議された。

問 当初は1園化する考えもあったと思うが、1園化に向けてどのような問題があるか。
教育委員会事務局長 国の地震被害想定は平成24年の秋ごろにならないと出ない。それを受け県の想定が出る。そうすると場所の選定は平成25年の春以降になる。その間、園児の安全をどう守るかである。

問 当初は1園化する考えもあったと思うが、1園化に向けてどのような問題があるか。
教育委員会事務局長 このアンケートをやる前にすでに2園化に向けた素案を示した。地区分けに関して色々な意見があり、このような数値になったと思われる。その後話し合いを続け、ご理解いただいていると認識している。

問 中川幼の海拔が21.5m、岩科幼が85m。2園化しても絶対安全とは言えない。もう少し議論が必要ではないか。
町長 松崎幼の避難訓練で小学校の屋上に避難するのに8分以上かかる。津波から逃げる時間もない状況で少しでも高い所に分け、園児の安全を守ることが必要である。



問 これまで東海地震はいつ起きてもおかしくないと言われ続けてきた。ここにきて一刻を争うというのはどうか。もっと早い時期に対応できたのではないか。
副町長 これまで地震の被害想定は阪神淡路大震災に準じて訓練も家屋の倒壊などが主体だった。津波はあまり想定していなかった。3・11の東日本大震災を見て、気付いた点が多かった。津波対策はやれることから速やかにやっていかなければならない。

問 統合には賛成だが始めから1園化を目指すべきではないか。行政コストもかかるし、審議の繰り返しを重ねることにもなる。
教育委員会事務局長 1園化への検討は引き続き行うが、検討期間中の安全を確保するというのが今回の統合案である。

反対討論

子どもたちの命を守ることは共通の認識。議論の中で1園化は皆一致した意見である。2園にしてもまた何年か後には1園化を審議することになる。園児への思い入れがあるなら早急に1園化を図るべきである。資金もあり町長の決断一つである。

賛成討論

松幼の避難訓練で想定内での避難は難しい状況。大地震が起きた場合、揺れが長く続き動けない状態で津波が来る。建設場所が決まっても、完成までには時間がかかることから現有の施設を使って2園化するのがベストである。早く安全な場所でする。1園化を図ることも要望する。

第4回定例会



町道江奈門野線崩落状況（10月25日）

一般会計補正予算

歳入歳出に1億7千920万2千円を追加して補正後の額を41億2千205万9千円（45%増）とする。歳出の主なもの、財政調整基金へ1億5千460万円積立、崩土があった町道江奈門野線維持工事2千万円、農林道・町道・河川維持補修工事など1千210万円。住宅リフォーム・太陽光発電システム設置補助金の追加350万円などが計上された。

（賛成全員〓可決）

条例・その他

◎松崎町職員の給与に関する条例の一部改正

人事院勧告に伴い40歳以上の職員給与の引き下げを行うもの。引き下げ額は月額400円から2千円。平成24年1月分給与から実施。

（賛成全員〓可決）

◎松崎町立図書館システム売買契約

（1千9万6千800円で締結）

図書館蔵書の貸し出し・返却の管理を行うシステムの入れ替えを行うもの。

（賛成全員〓可決）

本契約案件については11月25日招集の臨時議会に上程されたが仮契約書の日付に記載誤りが判明し、議案の取り下げが行われた経緯がある。議会として今後の再発防止に向けた申入書を町長に提出した。

◎特別職の職員で常勤の者の給料に関する特例条例

図書館システム売買契約の記載誤りなどの監督責任として町長、副町長の特別職2人の1月分の給料を自主的に10分の1ずつ減額するもの。

（賛成全員〓可決）

◎その他の条例改正

関連する法律の改正などにより3条例（松崎町消防団員等公務災害補償条例・松崎町税条例等・松崎町社会教育委員条例）と1規約（賀茂地区障害者計画策定・推進協議会規約）が改正された。

（賛成全員〓可決）

◎人権擁護委員の推薦

平成24年3月31日で任期満了となる土屋重喜氏（南郷）の後任に山本正子氏（池代）を賛成全員で適任答申した。

今回から各議案の賛否状況を掲載することとした。

第4回定例会の賛否状況一覧

議案番号	件名	議決結果	藤井要	福本栄一郎	佐藤作行	高柳孝博	土屋清武	関唯彦	一瀬寿一	稲葉昭宏	鈴木源一郎
議案第56号	松崎町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第57号	松崎町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第58号	松崎町税条例等の一部を改正する条例について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第59号	松崎町社会教育委員条例の一部を改正する条例について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第60号	松崎町立幼稚園統合に伴う関係条例の整理に関する条例の制定について	否決	×	×	×	○	○	○	×	×	×
議案第61号	松崎町立幼稚園通園バス使用料徴収条例の制定について	撤回	△	△	△	△	△	△	△	△	△
議案第62号	賀茂地区障害者計画等策定・推進協議会規約の一部を変更する規約について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第63号	平成23年度松崎町一般会計補正予算（第3号）について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第64号	平成22年度（繰越）地域活性化・住民生活に光を注ぐ交付金 松崎町立図書館 図書館システム売買契約について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第65号	松崎町特別職の職員で常勤の者の給料等に関する条例の特例に関する条例の制定について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
諮問第1号	人権擁護委員候補者の推薦について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
意見書案第3号	軽油取引税の免税等に関する意見書の提出について	採択	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○賛成 ×反対 議長は可否同数の採決以外は、採決に加わらない。

町政を問う



藤井 要 議員

まっごき荘の決算予測は

前年決算より赤字が増加



伊豆まっごき荘の運営状況は

質問

西伊豆町議会を傍聴したが、ごみ処理・火葬場は合併問題、地域住民感情からして簡単には解決できないと感じた。町はもっと話し合うべきだ。

町長

こちらからお願ひしたわけで、非常に難しいと思うが、粘り強く協議していく。

質問

那賀川水系河口周辺治水対策委員会の協議が再開されたが、委員選定基準はあるのか。いろんな意見を聞くため、多様な分野から選出できないか。

町長

今回は区長・学識経験者を中心に女性2名、一般募集5名とした。選考基準は今後の参考としたい。

質問

伊豆まっごき荘は2年間で6千100万円余の赤字だが、今年度の営業状況と決算予測は。

町長

2カ年続いた赤字決算からの脱却に取り組んでいる。震災後の影響は深刻で、決算見込みについては厳しい状況にある。

質問

赤字が続くようであれば売却しよとの意見もある。存続のための改革案はあるのか。町は単年度どのくらいの赤字なら町民が納得するかと考えるか。

町長

町民からかわいがられる施設でなければならぬ。赤字に向け、誘客など一生懸命やっている。

質問

現時点では、6千万円余の赤字予測ですね。

原発放射能対策は

ヨウ素剤購入も

質問

浜岡近隣の市町では内部被ばくに備え安定ヨウ素剤の購入、花粉防止マスクも有効とされているが。

町長

おおむね60km離れているが、風向きにより放射能汚染を心配する声もある。県の原子力防災対策研究会に参加し対策を立てる。

不祥事防止対策は

職員のモラル強化

質問

当町では8月に職員によるデータを改ざんする不祥事が発生したが、再発防止の取り組みは。

町長

職員倫理規定により倫理委員会が設けられている。職員相互間のチェックに努める。

質問

県下では教職員の不祥事報道が目につくが、町の現状と防止対策は。

教育長

当町では教職員の不祥事発生はない。不祥事根絶に向け取り組んでいる。

避難タワー建設促進は

防災対策はスピード感



福本 栄一郎 議員

質問

避難経路の整備、並びに避難タワーなどの建設促進の考えは。

町長

国では予想される東海地震について、被害想定の見直しが行われている。防災対策には、スピードが求められていることは承知している。事業の優先順位を踏まえた対応をしていく。

質問

津波浸水区域内では、自宅から半径200m以内に避難タワーを造る考えは。

町長

国の中央防災会議の被害想定を待って、地域防災の方と話し合いながら進めていきたい。
総務課長
避難タワーは全く造らないということではなく、建設にあたっては検討すべき点がいくつかあるので時間がかかる。

委員会の進捗状況

方針を早期に策定

質問

那賀川水系河口周辺治水対策委員会の進捗状況は。

町長

本年度第1回目として、12月6日に津波対策の専門家による講演会と委員会を開催した。委員会では、「当町の津波防災対策の取り組み」や「ソフト対策」、「ハード対策の整備状況と課題」などについて説明と質疑を行った。今後、津波対策の議論を深めて最善の対策方針を早期に策定する。

町政の取り組みは

安全なまちづくり

質問

町民に対する町長の使命と役割は。

町長

安心・安全なまちづく

り、住民福祉の向上を図っていくことが与えられた使命と認識している。

この使命を果たすためには、同じ住民代表である議会の支援と協力は欠かせない。

質問

「平成の花とロマンのふる里づくり」とは。

町長

地域資源を活用したグリーンツーリズム体制の基盤整備を推進し、さらに拡充させた松崎らしい

観光化を図る。知事が提唱する「ふじのくに美しく品格のある邑づくり」に積極的に参加し、町づくりにつなげていく。

質問

平成24年度予算編成で、地震津波対策の一環として東北地方への視察研修の考えは。

町長

百聞は一見に如かずなので、時間が許せばぜひやりたいと考えている。



津波対策講演会（12月6日・文化ホール）

4月2園化は急ぎ過ぎ

園児の安全確保が第一



鈴木 源一郎 議員



松崎幼稚園

【質問】

4つの町立幼稚園を平成24年4月から2園に統合しようとしている。巨大地震は確かにいつ来てもおかしくない状況にあるが、2園化は子どもにとっても、保護者や教員にとっても大変化であり、それまでにあと3カ月しかない。周知徹底や意見吸収が不十分になるのではないか。

町長

今回の2園化は東日本大震災の惨状をみて1園に統合するまでの間、緊急措置として津波の危険の少ない所へ2園に統合するものである。4月1日まで時間が少ないため戸惑う保護者もあったと思うが、何回か説明会も行い、町の家も修正して理解を得られるよう努力してきたところである。



統合の全容を明らかに

全体が分かる説明を

【質問】

統合による大変化の全容を子どもにも保護者にも教員にも残さず明らかにすることが何よりも先にやるべきことではないか。

町長

今回の統合の内容は中川幼稚園・岩科幼稚園の現有施設を利用しての統合であり、できること、できないこと、今後検討することなど全体が分かるような説明に心がけたところだ。

【質問】

震災後に統合の動きが少し見えたが、保護者に対しての正規の説明は10月頃だった。その間、教育委員会は隠密にしていたのではないかとの指摘があるが。

教育委員会事務局長

統合か否かどっちつかずで保護者に問いかける

と、それが変に不安をおおる結果になるとの判断で会議の中だけの話として進めていたときはあった。

【質問】

通園は町営バスを1台運行し、利用児には一人一律月2千円負担させる案が出されているがそれは無料にし、私立保育園児の通園自己負担も町費で助成し、バランスをとるべきではないか。

町長

通園バス使用料は利用児が一部に限られており受益者負担的要素があること、また保育園の通園バスが有償であることを踏まえ、極端な負担増にならないよう一人一律2千円（夏・冬2カ月は徴収しない）とした。保育園を含む通園費の総合計は概算で700〜800万円になる。保育園の通園バスへの補助については現在のところ考えていない。

大震災の教訓を活かせ

ハードとソフトで対応



高柳 孝博 議員

ラはそのように検討して
いきたい。

質問
想定を頼るな、最善を
尽くせ、率先して避難者
たれの教訓を踏まえての
防災のハード面の対策は。

防災ラジオはスムーズ
に配布し、津波対策の海
抜表示板は避難所表示を
して次の行動が分かるも
のに、WEBカメラは陸
こうの閉鎖の監視ができ
るようにできないか。

町長
防災ラジオは2月下旬
から3月上旬に配布予定。
津波表示板・WEBカメ

WEBカメラとは
カメラを設置した場所
の映像をインターネット
を介し閲覧できる装置。

質問
防災のソフト面の対策
としてBCP（事業継続
計画）作成、陸こうの開
閉ルール、アマチュア無
線、ボランティア対応は。

町長
BCPについては、電
算機のデータのバック
アップ体制の強化をする。
陸こうの開閉は常時閉じ

ておくように関連部門に
周知徹底する。

アマチュア無線は、過
去に警察署と愛好家で覚
書が交わされ、役場にも
設備があるが具体的活用
方法は定めていない。
ボランティア受け入れ
については本年度中に本
部立ち上げ訓練をする。

自然文化の保存継承は

データベース化を検討

質問
町の自然環境と歴史的
社会的文化財の保存と継
承について、町史の編さ
ん状況と資源のデータ
ベース化の可否は。

ジオパークとボラン
ティアガイドの組み
みは。

町長
町史は平成17年に通史
編さんが完結し、以降は
行われていない。
図書館システムへは書
籍としてならば蔵書の案
内としてできる。

データベース化は社会
的にも要求されてくるの
で、対象資料の確認など
で検討する。

ジオパークはガイド養
成、解説板、案内板の整
備を予定。ビクターセン
ターも検討する。
ボランティアガイドは
増員で案内を維持する。

生きがいを指標で

ふれあいを大事に

質問
高齢化社会の経済成長
戦略に頼らない生きがい
幸福感のビジョンと施策
は。

町長
一般高齢者の聞き取り
調査では、「友人や知人
と過ごす時、家族との団
らん」との答えが多く、
一人暮らし高齢者の見守
り体制づくりと各種教室
開催、グループ活動への
支援をする。



海拔表示板の設置（松崎小学校）

要援護者台帳の整備は

整備を進めている



佐藤 作行 議員



高台への避難訓練（12月4日・江奈2区）

質問

災害時要援護者台帳は現行化され整備されているか。情報の共有化は万全か（防災担当、民生委員、消防団など）。

町長

災害時要援護者台帳については、本年度県の補助金をいただき整備を進めている。

整備後の台帳は、健康福祉課と防災担当課で共有し、収集した情報の外部提供については、松崎町個人情報保護条例の目的外利用と外部提供の制限の例外規定「個人の生命、身体、健康、財産又は生活を保護するため、緊急かつやむを得ないと認められるとき」に基づき、民生児童委員、自主防災会などへの提供をしていく。



防災用具などの点検は

防災訓練時に点検

質問

役場において、防災用具・備品・飲料水・食料などの点検は定期的になされているか。

町長

町が管理する防災対策のための備蓄資機材は、町内5箇所（松高・道部総合グラウンド・旧岩小・旧中小・旧三小）の広域避難地にある防災倉庫の中に保管している。

非常用備蓄食料は賞味期限に注意して随時追加補給している。その他、発電機や炊き出し器などの機械器具類は定期的な運転点検が必要となるので、防災訓練時に点検などを行っている。

災害時相互応援協定は

積極的に進める

質問

ほかの自治体との間に災害時相互応援に関する協定（仮称）を結ぶ用意はあるか。

町長

災害時の応援協定については、今回の震災においても、物資の応援や避難場所の提供など被災地にとっては心強い支えとなったことが報道されていた。

当町においても、地震や台風被害などで道路網の寸断により孤立するところが想定されているため、外部からの援助は願ってもないことであり、また、こちらから被災地への支援についても積極的に進めたい。

質問

東海・東南海地震に備えて災害対策基金を創設する考えはあるか。

町長

当町においては、財政調整基金での対応を原則として考えている。

新年度観光への対応は

本年度以上のPRを



土屋 清武 議員

質問

当町の基幹産業と言っべき観光産業は、ここ数年来の景気低迷から依然として脱却することができず、加えて3月11日の東日本大震災による津波風評被害などにより、今年の観光客の入り込みは近年にない著しい減少を呈している。地域経済の疲弊を一層加速させ、しいては町税のさらなる減収につながるものと推測される。

新年度に向けて観光産業への対応策は。

町長

そのような中、観光協会と連携してキャラバンによる誘客やトップセールスを行うなどして誘客活動に努めてきた。新年度に向けては、本年度以上のキャンペーン・PR活動が大切であると考えており、関係団体と連携を密にして、効果ある取り組みを考えていきたい。

質問

観光協会の事業内容は大部分が町の委託事業であり、協会独自の誘客宣伝活動は財政上、非常に困難な状況となっている。主な収入源である宣伝協力費が平成18年度370万円が22年度では97万円と3分の1以下に減少している。今後の誘客宣伝活動は、町が積極的にリードしていかねばと思うが。

町長

協会の収入源はインターネットなどにより、著しく減少していることは承知している。これからもグリーンツーリズムを通して、町全体を観光の場として提供していくよう活動していきたい。

郡外通院バス支援は

検討していきたい

質問

順天堂静岡病院へのバス通院は、乗り換えが多

く高齢者などに不便である。直通バス運行の支援をすべきと考えるが。

町長

公共交通機関を利用すると数回乗り継ぐ必要があると大変であることは理解できる。特定医療機関への直通バス運行の助成になるので、良く検討していく必要がある。

質問

東海岸線では現に下賀茂発・下田・河津経由で

順天堂静岡病院への直通バスが1日1往復、週5便運行されている。その経費に対して乗車料金と経費面で赤字が出た場合、その額を東海バス・順天堂静岡病院・関係市町でそれぞれ負担して運行している。これ同様に西海岸線でも運行できないか。

町長

そのようになれば良いが、検討していきたい。



観光キャンペーン (12月8日・横浜駅)

町長の理念を示せ

田舎づくり人づくりだ



稲葉 昭宏 議員



松崎新港（5月3日）

質問

町長に就任して2年になり、「平成の花とロマンのふる里づくり」を何回となく主張してきたが、言葉が踊るだけで実体が見えてこないのでは。

町長

「平成の花とロマンのふる里づくり」は松崎らしい田舎づくり・人づくりなので、「全町まるごとふる里自然体験学校」というような形で町全体が観光地として体験を通して稼げることが原点だ。

質問

町長の町づくりの理念が、職員や町民に具体的に浸透していかないのではと思うが今後の対応は。

町長

グリーンツーリズムを中心に観光協会と企画観光課が連携して取り組んでいき、今後、全国で39の有名な町村で構成している「日本で最も美しい村連合」に参加したい。

質問

新港と旧港の町の対応

についてだが、5月の連休の5日間で新港だけでも1千200人余りの観光客が来たとの報告があったが、8月に入り両港とも料金を徴収した。その結果、惨たんたるもので車が2〜3台という日が両港とも多かった。この指

示は町長からか。

町長

私ではなく、委託した観光協会の判断だと思う。

貧しい発想が命取りに

委員会でも反省を

質問

観光客が多く来たからすぐに金銭に結びつける発想はあまりにも公的機関として貧しく、観光立町を目指す態勢として観光的センスが大いに欠けているのではないかと。

町長

今後検討委員会で話し合う。

質問

「第1回那賀川河口治水対策委員会」では県の

土木関係者やコンサル業者・専門学者などの数が多かった。これでは地元委員の自由で活発な議論はできず、まるで県主導で最初から水門ありきのような雰囲気だったが。

町長

那賀川河口水門については、町長としても何もしないで怒られるより、行動をして怒られる方がいいので一日も早くという思いだ。

不況対策の発動を

検討する

質問

町内の厳しい経済状況の中で一向に行政施策も方向性も見えてこない。こうした現状が続くと町民から「税金を返せ」という声も出るのではと心配だ。町長の後半期に強い施策を期待するが。

町長

プロジェクトチームみたいなものを作り、じっくり考えたいと思う。

町議会広報研修会参加 議会だより編集テクニクを学ぶ

11月11日、静岡市において県町村議会議長会主催による広報研修会が開催され、松崎町議会からは広報編集委員ら8人が参加しました。

講師には、広報研修で実績のある城市創氏を招き、「議会だより編集テクニク」と題して、読みやすい文章の作成や写真掲載に係る留意点などについて学びました。また、県内4町の議会広報紙を使って見出しの付け方やレイアウトについて具体的に指導を受けました。



る。そのためには、全体構成を頭に入れながら、読みやすいレイアウト、わかりやすい文章などにしていくことが重要である」と述べられました。

松崎の議会だよりも審議内容を中心に読みやすく、分かりやすく、親しみやすくを基本理念に編集して参ります。

賀茂郡議員研修 豪雨災害・津波災害と災害情報

賀茂郡議員研修会が10月28日、西伊豆町宇久須の住民防災センターを会場に開催され、賀茂地区5町の議員が参加しました。

今回の講師には、静岡大学防災総合センター副センター長であり准教授の牛山素行氏を招き、今もつとも注目されているテーマ「豪雨災害・津波災害と災害情報」について、わかりやすく話されました。



講師の牛山素行氏

えると避難は困難であることなどが紹介されました。

また、前兆情報が複数あると災害につながる。自分の地域を良く理解し何が起きるのかを考えるなど危機管理意識を持つことが大切であると強調されました。

1 豪雨
洪水災害は屋外で亡くなっている人が多い。それは、洪水の中を車やバイク、歩きで避難したり、川を見に行つて流され亡くなっている。一番重要なのは、流れる水に近づかないこと、浅いから大丈夫と考えない。流速1m/秒、水深0.4mを超

2 東日本大震災の津波
三陸地震では40〜50%の人が亡くなっていたが、今度の地震では浸水域で約12%の人が亡くなり、多くの人が助かっている。これまでの防災の取り組みがあり、積極的に避難訓



練を実施することにより自ら考え行動して助かっている。ハザードマップ（災害予測図）を作り危険個所を住民に知らせていくことも必要である。また気象庁のホームページには多くの情報があるので活用すべきと述べられました。（副議長記）



議会のうごき

10月

12日	静岡県町村議会議長会（静岡市）
13日	広報編集委員会
19日	賀茂郡議長会（東伊豆町）
20日	広報編集委員会・議会全員協議会
27日	議会だより93号発刊
28日	賀茂郡町議会議員研修（西伊豆町）
31日	静岡県町村議会議長会県外視察（熊本県）

11月

11日	町議会広報研修会（静岡市）
14日	全国過疎自立促進連盟理事会・総会（東京） 北海道空知町議会議長会視察来町
15日	賀茂郡議長会県外視察（東京）
16日	全国議長大会（東京）
17日	静岡地方議会議長連絡協議会研修会（静岡市）

25日 第3回臨時会・議会全員協議会

12月

7日	議会運営委員会・広報編集委員会
13・14日	第4回定例会
14日	議会運営委員会
21日	西伊豆広域消防組合議会定例会
22日	西豆衛生プラント組合議会定例会 長野県小諸市議会視察来町

稲葉 昭宏
佐藤 作行
福本 栄一郎
藤井 清要
土屋 清武

編集委員

関 唯彦

編集委員長

議長 斉藤 重

発行責任者

海鳴り

第3回臨時会が11月25日に開催された。図書館システム売買契約（約1千万円）の議案は、提案理由の説明を求める直前に記載事項の過ちが発覚。仮契約書は無効白紙となり、議案を取り下げ、流会という事態を招いた。

事の重大性から議会は文書をもって当局を正した。結果として、不祥事と共に重なる不手際に対して町長・副町長の1カ月限定給料削減の回答があり、協議の上、それを受理した。

今回の失態も年功序列の上に座す緊張感の欠如である。各立場の後輩教育に徹し、秩序ある明るい職場を目指してほしい。

議会は当局と両輪を理想とする中でチェック機能を本分とし、代弁者たる役割を果たすことの重要性を改めて痛感した次第である。

（議長）

平成23年度

永年在職町村議会議員 総務大臣感謝状贈呈 鈴木 源一郎 議員



鈴木源一郎議員

去る10月28日、東京都内で総務大臣感謝状贈呈式が行われ、鈴木源一郎議員に議員在職35年以上の感謝状が贈呈されました。

議会全員協議会とは

町長が行政上の重要問題などについて議会の意見を聞くために開かれる会議。協議の対象は、行財政運営上の重要問題や対外折衝関連事項、議会に提案予定の案件についてなど多岐にわたります。会議は公開を原則としていますが出席議員の2/3以上の議決により非公開とすることができま

